

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣養老高等学校

学校番号

25

I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。		
2 評価する領域・分野	学校運営		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	肯定的な回答（「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の和）が多く、生徒用のその平均は92%、保護者用の平均は85%で、先年度と同じであった。 ・肯定的な回答が70%を下回った項目は無かった。 ・肯定的な回答が特に多かった項目 【生徒】「専門知識が豊富で信頼できる先生が多い」（97%）「安全衛生面に配慮、安全指導を行っている」（97%）「資格取得など明確な目標をもたせている」（97%） 【保護者等】「学校目標に共感する」（92%） 「子供は喜んで学校へ行く」（92%） ・肯定的な回答が少なかった項目 【生徒】「教職員は働き方改革に努めている」（78%） 【保護者等】「教職員は働き方改革に努めている」（73%）「オンライン授業等を行い生徒の理解を高めようとしている」（75%）		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1)授業改善に努め、生徒自らが学び考える授業を実践し、主体的に学習に取り組む生徒を育てる。 (2)キャリア教育を推進し、生徒の自立のために必要な取組を積極的に実践し、魅力ある学校づくりに努める。 (3)他者を尊重し、生命を大切に教育を実践し、規範意識や品位を備えた心豊かな生徒を育て、“人権文化あふれる学校”づくりに努める。 (4)地域連携に加え多様性の容認と国際理解教育を推進することにより、コミュニケーション能力とグローバルな視野を身に付けた生徒を育てる。 (5)部活動、生徒会活動、農業クラブ活動、家庭クラブ活動、商業クラブ活動、Sクラブ活動で生徒が主体となる活動を創出し、活力ある学校づくりに努める。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1)各教科・学科単位の会議、分掌の組織 (2)企画・職員会議と各種委員会、学校運営協議会 他		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1)地域産業の担い手育成総合戦略事業	(1)日常の実践活動及び進路実現		
(2)キャリア支援事業	(2)学校運営協議会委員、PTA、地域住民		
(3)創立100周年記念事業	連携先企業・機関、学校関係者の意見		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
(1)主体的に取り組む生徒の育成 地域や企業・大学等と連携した研究活動 出前授業や高校見学会、高校フェア（中止）等を生徒が担当	① 学校として職員が組織的に取り組めたか	A B C D	
(2)キャリア教育の推進 基礎トレ講座、ドリカム講座、進路後援会 意見発表会、学習成果発表会（中止）、キャリアガイダンス キャリアパスポート、中長期インターンシップ、事業所見学	② 進路状況、競技会・コンクール・発表会・資格取得における成果はあがったか	A B C D	
(3)心豊かな生徒の育成 朝読書、弁論大会、人権教育（ひびきあい活動） 遠足児童との交流、ボランティア活動	③ 職員、生徒及び外部の評価はどうか	A B C D	
(4)地域連携及び多様性の容認と国際理解教育の推進 養老駅イルミネーション、岐阜駅・大垣市役所での花飾り ユネスコスクール加盟、海外体験研修（中止） 農業高校生海外実習派遣事業（中止）		A B C D	
(5)活力ある学校づくり 部活動、生徒会活動、MSリーダーズ活動、 農業クラブ活動、家庭クラブ活動、商業クラブ活動、Sクラブ活動		A B C D	
11 成果・課題	○休校中や長期欠席をする生徒へのオンラン授業の実施など機材も含め充実した対応ができるようになった。また、様々な感染症対策を講じ、新たな実施方法を模索しながら大養祭をはじめ数多くの学校行事や教育活動を進めることができた。 ○地域資源を活用した専門的職業人の育成に向けて、商品開発や地域社会における諸問題の解決に向けた取り組みを推進し、積極的に情報発信するとともに、多くの素晴らしい成果を上げた。（新聞掲載、計53回。その他、テレビ取材、コンクール表彰等） ▲1月に1週間を超える休校となる新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した。 ▲教職員の働き方改革プランの基本目標（時間外月45時間未満）が達成できなかった。		総合評価 A B C D

12 来年度に向けての改善方策案
・ クラスター発生の原因を検証し、感染症対策の改善に取り組むとともに、生徒の学びが途切れないような学校運営を推し進める。 ・ 地域と連携した活動をさらに進め、総合学科と農業科の専門性の追求と併置のメリットを生かした研究活動の推進を図る。 ・ ICT機器の活用法、会議の在り方、学校行事や部活動の精選等を検討し、教職員の働き方改革に繋げる。

I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。
----------	---

2 評価する領域・分野	教務部
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	多面的な学習評価、一人一人の能力に応じた指導、ICTを活用した学習活動および学習支援による理解度、総合的な探究の時間を有意義に感じるなど学習指導に関わる項目について80%以上の生徒が肯定的評価としている。一方、本校の学習指導に対する保護者理解をどう高めるかが課題となる。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1)基礎的な知識・技術の定着に向けた家庭学習時間増加の推進 (2)課題解決学習の充実に向けた総合学科、農業科の連携推進 (3)ICT機器を活用した授業展開の具体的な取組みのため情報部との連携を強化し、指導方法の研究に努める (4)生徒のための教育活動、過去にとらわれない働き方改革を踏まえた学校運営改善への提案
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	教務部を中心に各教科・学科、進路、学年が連携し全校体制で取り組む。

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
・ 自主学习ノートの実施および基礎トレ学習の推進 ・ ICT機器の有効な活用の研究により「わかる授業」づくりと「生徒が主体的に学ぶ授業」の実践など各教科の授業特性を踏まえ、授業改善の工夫、教員研修の実施	・ 保護者生徒による学校改善アンケート ・ 生徒による授業アンケート ・ 研究授業における参観者との授業研究 ・ 指導と評価の年間計画の振り返り

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1)基礎的な知識・技術の定着に向けた家庭学習時間増加の推進 ①自主学习ノートの取組とやり切らせる指導の徹底 ②各教科、科目における宿題、長期休暇等における課題の作成 ③進路指導部と連携を図り学力向上を目指す	・ 保護者、生徒によるアンケート調査結果の分析 ・ 授業参観を通して教員同士の情報交換ができたか	A (B) C D
(2)課題解決学習の充実に向けた総合学科、農業科の連携推進 ①専門科目授業におけるプロジェクト学習・課題研究の充実 ②本校創立百周年事業に向けた「生徒によるプロジェクト」の取組み ③総合学科と農業科合同の学習成果発表会の開催 ④互いの取組を理解し、持続可能な取組の模索と提案	・ 指導と評価の年間計画への記載事項の内容が目標に沿っているか	(A) B C D
(3)ICT機器を活用した授業展開の具体的な取組みのため情報部との連携を強化し、指導方法の研究に努める ①各教科で対話的深い学びにつながる授業の工夫と実践 ②生徒指導との連携による人権文化あふれる学校づくりに配慮した目標設定とわかる授業、力をつける授業の推進 ③研究授業と公開授業による、教員同士の授業研究および情報交換 ④生徒による授業評価の実施と、振り返りをもとにした目標設定	・ ICT機器の有効な活用について教員同士の情報交換ができたか	(A) B C D
(4)生徒のための教育活動、過去にとらわれない働き方改革を踏まえた学校運営改善への提案 ①令和4年度入学生に向けたカリキュラムの研究と運営方法 ②学校行事の見直しと変更 ③観点別学習状況評価方法の提案と試行 ④組織で取り組む指導と指導者の意識改革		A (B) C D

11 成果・課題	▲(1)成績が振るわない生徒においては、個々の学力だけの問題とせず家庭学習がしやすい環境を十分に整えるため、学習教材の持ち帰り指導の徹底を目指す。 ○(2)持続可能な取組みとして地域との連携を多様化させ、本校生徒の活躍の場面を広げられた。人前で堂々と話や内容説明ができ、主体的に学ぶ生徒が増えて自信を付けている。 ○(3)オンライン授業の実施で授業展開の幅が広がった。来年以降、生徒に何をどのように学ばせ、どのような力を身に付けさせるのかを観点別学習状況評価に反映させたい。 ▲(4)年間で予定していた行事の一部はコロナ禍の影響によって変更したが、新たに西濃地区の中学校教員、塾講師を対象に見学会を開催して本校のPRができた。周年記念事業の式典は中止となったが、生徒のためになる記念講話は開催できた。進路関係の行事は規模を縮小しながらも継続的に指導することが進路実現につながった。今後は職員の働き方改革にも十分に視野に入れ、行事の在り方や内容について十分な検討を進めていきたい。	総合評価 A (B) C D
----------	---	-------------------

12 来年度に向けての改善方策案 (1) 基礎的な知識・技術の定着を目標に日常の家庭学習時間の増加と定期考査週間の学習に対する意識改革 (2) 課題解決学習の充実と実践に向けた総合学科、農業科の連携推進の強化 (3) 観点別学習状況評価の具体的な実施 (4) 学年別の到達目標を組織的に取り組むための学年団の結束づくり

I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。		
2 評価する領域・分野	生徒指導部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	① 「マナーや社会規範の習得」 生徒94%（前年度98%）、保護者83%（前年度88%）の評価であった。 ② 「いじめや差別への対応」 生徒93%（前年度96%）、保護者は78%（前年度76%）であった。 いじめアンケートや日常の生徒の様子をつぶさに観察しながら未然防止に努め、事案は小さな芽のうちに対応していくことで、信頼される学校にしていきたい。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	① 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上 ② 自らの生命と健康および人権の尊重 ③ 安全・安心な学校生活の実現 ④ 教育相談の充実・チームサポートによるスクールカウンセリングの展開 ⑤ 問題行動防止と充実した高校生活実現のための全職員が連携、指導を行う		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導部、教育相談との連携 ・学年・学科との連携 ・いじめ防止対策組織など、組織体制の充実		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) MSリーダーズ活動や委員会活動を通した規範意識の向上 (2) 全校統一人権LHRの取組 (3) 交通安全啓発活動 (4) 教育相談活動 (5) 生徒支援体制の充実	(1) 生徒・保護者の各アンケート結果 (2) 遅刻指導、交通事故、問題行動数による評価		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<u>①基本的生活習慣の確立と規範意識の向上</u> ・身だしなみ指導の実施と学年会との連携した事後指導の徹底 ・コミュニケーション能力(挨拶・言葉遣い等)、マナーの指導 ・外部講師による情報モラル講話の実施と携帯電話のマナー指導 ・MSリーダーズ活動を通した規範意識の向上	・各行事の実施状況や生徒の様子、感想等 ・MSリーダーズ活動後の生徒の成長 ・身だしなみ違反や問題行動件数 ・生徒や保護者のいじめに関する調査 ・スクールカウンセラーの活用状況	A (B) C D	
<u>②自らの生命と健康及び人権の尊重</u> ・コロナハラスメントの防止 ・生活アンケートによるいじめの実態把握と早期の指導 ・全校統一人権LHR ・MSリーダーズによる人権啓発活動		A (B) C D	
<u>③安心・安全な学校生活の実現</u> ・交通安全強化指導の実施 ・自転車点検、交通安全講話の実施 ・MSリーダーズによる交通安全啓発活動		(A) B C D	
<u>④教育相談の充実、チームサポートによるスクールカウンセリング</u> ・生徒指導ORを通した1年生の適応指導の充実(宿泊研修は中止) ・教育相談週間や教育心理検査等の実施による生徒理解 ・SC、子ども相談センターの活用		(A) B C D	
<u>⑤問題行動の防止と充実した高校生活実現のための援助指導</u> ・「あたたかい言葉がけ」等の継続による倫理観、道徳観の育成 ・生徒への支援体制の充実(学年会、職員会議等で情報共有と連携)		(A) B C D	

11 成果・課題	○昨年度より交通事故数が激減しており、生徒の交通モラル遵守が長年の指導の成果として表れたものとする。 ○各種アンケートや教育相談を実施し、生徒の悩み等について小さな芽の段階で寄り添いながらサポートすることができた。 ○「あたたかい言葉かけ」や「人権LHR」などを意識した教育活動を行うことで、生徒への人権教育を推進することができた。 ▲学校行事の再開（夏休み、コロナ感染休校明け）のタイミングで生徒間のトラブルが増加した。トラブルから解決までを貴重な経験として生徒に指導しているが、多感な時期、またコロナで関係性が希薄になっていることもあり、解決方法やマインドセットについて課題が残った。 ▲情報モラルに関しても今年度は大きな問題は起こらなかったが、スマートフォンに依存する生徒の割合が多くなっている昨今、正しくデジタルデバイスを活用する能力と情報モラル遵守の指導を行う必要がある。	総 合 評 価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	・コロナ感染による休校で、悩みを抱えたり不安定な気持ちになったりしている生徒に寄り添いながら、居場所の確保を促す。そのためにはアンケートや教育相談、学級日誌などから生徒の状況をいち早く把握し、早期に対処する。 ・「あたたかい言葉かけ」や「人権統一LHR」などを一過性のキャンペーンとせず、日常の教育活動から相手を尊重したふるまいができるように、全教員が意識をし「相手を思いやる気持ち」を育成したい。	

I 自己評価

1 学 校 教 育 目 標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。		
2 評価する領域・分野	進路指導部		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	1) 適切な進路情報の提供、2) 将来の進路希望に沿った支援・助言、の2項目ともに、9割以上の生徒、及び8割以上の保護者から肯定的な評価を得ており、高い支持を受けている。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 専門教育を活かした進路指導と基本的ソーシャルスキルの定着 (2) より高い進路目標を目指させる指導、地域で活躍できる人材の育成 (3) 外部教育力、地域連携、キャリアパスポートを活用した社会的・職業的自立意識の育成、個性・能力・興味・適性を活かす進路指導		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	学年団を中心としたキャリア教育実践を進路指導部がサポートする体制 学年・教科・分掌の横断的連携体制 地域企業、外部人材との緊密な連携や地域社会との協同体制 働き方改革の観点からの行事精選(S&B)、仕事のスリム化・みえる化		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	(1) 基礎トレ、朝トレ、キャリアガイダンスの充実 (2) ドリカム小論文指導講座、面接指導、志望理由書作成指導 (3) 外部教育力の活用、キャリアパスポートを活用した振り返り感想コメント・感受性の共有		
7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	1) 就職内定率、進学合格率 2) 難関志望者動向 3) 事後アンケート、感想・作文評価 進路アンケート		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評 価	
(1) 基礎トレ：基礎学力・一般常識の習得に主体的な取組体制を作った。3年前期は全クラスがSPI対策や基礎学力の増強を目的に朝トレ・朝スピーチを実施した。 キャリアガイダンス：年間を通じて様々な進路ガイダンスや体験学習、講演会を実施。職業観や勤労観、人権意識を高め、進路意識や公共心、他者を尊重し感謝する精神を育むことができた。	(1) 基礎トレや朝トレに取り組む姿勢・定着度 各種ガイダンス前後の生徒の変化・成長	A (B) C D	
(2) ドリカム講座：難関校志望者が切磋琢磨する環境を整えた。小論文指導を通して、自己表現力を高め、課題解決に向けた取組を促した。医療看護系等の難関校にチャレンジできる体制を築いた。 基礎力養成：外部基礎力診断テスト、実力テストを活かして長期的視野に立った基礎力養成に向けた計画的・継続的な学習体制を整備した。	(2) ドリカム講座への参加意欲・態度、参加者数、成果 進学・就職に対応できる自己表現力の向上	(A) B C D	
(3) 外部教育力の活用：地域社会と連携し、講演会や事業所展、事業所見学、インターンシップ、職業体験／模擬授業体験講座を実施。PTAや卒業生と連携し、面接指導や語る会を実施。外部講師(作家 岸田奈美氏)を招き、全校進路講演会を開催し、ユニバーサルデザイン・人権感覚と進路意識の向上を図った。	(3) 生きる力、職業観・勤労観、進路意識の向上 外部人材、地域社会との協力体制・信頼関係の強化	(A) B C D	

11 成果 ・ 課題	自己肯定感・有用感、大養ブランドとしての自尊心が高まり、基礎学力・自己表現力の強化育成が実り、就職希望者は公務員志望者を含めて100%内定を達成した。ドリカム講座は25名(前年比1.5倍)の生徒が7か月間継続的に受講し、論文作成力を向上させた。その成果として国公立学校(滋賀大、岐女短、県衛生専)受験者が増加した。進学・就職活動を通して自己表現力や基礎学力を高め自立心を育み、大半の生徒が第一志望への合格を果たした。 次年度への課題として、将来への展望をもった向上心を喚起し、家庭学習習慣を確立し1年生から高い進路目標を掲げて着実に努力を継続できる人材育成を図りたい。2年生はより高い進路志望を実現する具体的な道筋を主体的に考えて進路実現を図らせたい。	総合評価 A B C D
12	来年度に向けての改善方策案 ・SPIIに対応できる「確かな基礎学力」の養成と難関校を目指す論文表現力を育成するドリカム講座の推進。 ・基礎トレ・朝トレ教材の新たな有効活用 の確立。 ・3年間の段階的な成長に合わせた各種キャリア教育行事を繋ぐ自己の軌跡を振り返り、進路選択の主体的な判断材料となる『キャリアパスポート』を組織的かつ効率的に運用する方法の確立。 ・働き方改革の観点から進路行事のスリム化、効率化を推進する。	

I 自己評価

1 学 校 教 育 目 標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。
---------------	---

2 評価する領域・分野	◇総合学科部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	該当なし		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 地域及び周囲から信頼され、地域社会に貢献できる有為な人材の育成に努める。 (2) 主体的に学習し確かな学力を身に付け、自己実現に向けて努力する資質を育成する。 (3) 科目選択についてのガイダンス・カウンセリングの充実を図る。 (4) 地域連携やボランティア等を通して、豊かな人間性を育む。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1) 企画委員会、職員会議、総合学科部会での検討 (2) 他分掌、学年会との連携		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 校内販売会 (2) 校内弁論大会、学習成果発表会 (3) 科目選択説明会、科目選択カウンセリング	(1) 事後アンケート (2) 生徒の感想 (3) 科目選択変更者の人数		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評 価	
(1) 校内販売会で、ビジネス系列が鶴舞屋と共同開発した「鶴舞美そぼろ大養唐辛子入」、一太郎と共同開発した「カレー太郎」を販売した。 (2) 春休みの間に自分自身が身近かに感じる問題点などを、一人一人が考え、クラス弁論大会を行い、クラス代表者がオンラインでの校内弁論大会で発表した。 (3) 1年次生には、「科目選択説明会」を実施し、また、3年次生E群の授業を見学して科目選択に役立てた。 2年次生には、「総合的な探究の時間」に、科目選択の説明を行った。	販売実績 生徒の取組の仕方 科目選択の仕方	A B C D A B C D A B C D	
11 成果 ・ 課題	○ビジネス系列の商品開発で、一般の人に販売する商品を自分たちで試行錯誤の結果、作り上げることができた。 ○1年ぶりの校内弁論大会では、発表者の考えを熱心に聴くことができた。 ○ビジネス系列の商品開発で、唐辛子の栽培と加工で農業科とコラボができた。		総合評価 A B C D
12	来年度に向けての改善方策案 3年次生での商品開発に向けて、2年次生から時間をかけてじっくり考えさせる。		

I 自己評価

1 学 校 教 育 目 標		「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。	
2 評価する領域・分野		農業部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等		アンケートによる分析は実施していない。 新聞報道等により地域の方々の本校生徒に対する期待の声は大きい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標		(1) 持続可能な循環型社会に向けて環境・農業教育を推進し、世界規模で考え、足元から行動する学校として地域の拠点となるグローバル・アグリハイスクールをめざす。 (2) 人権感覚を養い、心の教育、命の教育、食農教育を推進する。 (3) 経営能力や奉仕精神の育成に重点を置き、基本的な農業技術能力と応用力を持った地域社会人を育成する。 (4) 地域貢献、地域連携、地域共生、地域資源の活用を推進する。 (5) 幼保小中高などに対し、農業教育活動の普及、支援を推進する。 (6) 生徒一人一人を一層輝かせ、幸せにつなげる進路指導をすすめる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制		(1) 職員会議、農業部会、科長会、各学科会議 (2) 地域企業との連携や地域社会との協同体制	
6 目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)環境教育の推進 (2)心の教育・いのちの教育・食農教育の推進 (3)農業技術教育の推進 (4)地域に根ざした教育の推進 (5)農業教育の普及活動の推進 (6)進路指導の充実		事後アンケート、各種メディア等の報道	
8 取組状況・実践内容等		9 評価視点	10 評 価
(1) 耕畜連携を推進し、乾草残渣・牛糞などの堆肥化と耕種での有効活用を進めた。水生生物調査や希少動物の種の保存への取組など新学科の中核となる学習を展開できた。		事後アンケート 各種イベント等における地域の声 職員、生徒の意見 各種メディア等の報道	A (B) C D
(2) 栽培管理、生育調査、加工品作り等科毎に野菜・水稻を中心にした実践的な授業展開を行った。また、「生命を育み、絆と未来をひろげる」のスローガンを掲げ、小学校、幼稚園児童の交流受け入れ、農福連携（特別支援学校との交流）、動物供養動など多様な心を育てる学習を推進した。			A (B) C D
(3) 作物部門ではお米のJGAP認証維持審査を受け、他の作目でも取得に向けての意識が高まった。教職員向けに「西濃地域農業教育懇談会」を実施し、最新の農業技術について情報共有した。			A (B) C D
(4) 新型コロナウイルス感染防止に向けた施策の中で、学習活動の場も大きく制限を受け、従来のように活動できなかった。その中でも、創立100周年記念事業に向けた「清酒プロジェクト」、「美濃柴犬の種の保存」等の活動を展開することができた。			A (B) C D
(5) 新聞、JA広報誌等を通じて生徒の実習活動の様子を地域に公開した。地域への農業学習内容の普及PRの場である「大養祭」は非公開となり、一般向けの各種販売会も自粛した関係で、直接生徒自身が地域の方にPRする場面が設定できなかった。			A (B) C D
(6) 西濃農林事務所と連携した管内農業現地巡回学習会や地域産業の担い手育成総合戦略事業を展開する中で、新規就農や担い手育成に向けての意識付けを高めることができた。進路指導部と連携し、小論文指導を充実させたが、国公立大学への進学者を出せなかった。			A (B) C D
11 成果・課題	(1)有機減農薬栽培への転換 → 堆肥化施設の整備計画等の推進 (2)幼・小児童等の受入継続 → 学習効果と計画的な受入 (3)生産物の付加価値定着を図る → PR戦略と流通実践 (4)新商品開発活動等の定着 → 連携内容を一層PR、関連業者との連携強化 (5)農場の在り方 → 学科改編に伴い農場規模や農場生産物の販売等を模索 (6)後継者育成 → 後継者育成の実践場づくり。進学へのモチベーション維持活動		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 (1)学科改編及び新学習指導要領を踏まえた各科3本柱の見直しや農場の将来構想の構築 (2)地域資源及び農場生産物を活用した生徒の地域活性化と流通実践への取組 (3)ホームページの定期的な更新と地域メディアとの連携によるPRの充実 (4)後継者育成活動の充実と地域技術交流体制作り (5)専門性を生かした進路先確保と進学意欲を積み上げる指導、国公立大学への進学者輩出を目指す			

I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。		
2 評価する領域・分野	寮務部		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	(1) 農業経営者育成高等学校寄宿舎（B型）について ・国の指定を受けた特別な寮としての目標や利点について、十分な理解が得られた。 (2) 新型コロナ対策と寮運営について ・寮における新型コロナ対策について理解いただき、迅速な対応を得られた。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 社会人・組織人として求められる倫理観、人権感覚、規範意識、所属意識、コミュニケーション能力の育成につながる寄宿舎教育の推進。 (2) 規律ある生活と学習を柱とし、日課や行事を通して自律的で調和のとれた生徒を育成する。 (3) 農業・産業の後継者・経営者育成に関わる取組の充実を図る。 (4) 校内各分掌と連携し、寮生の自己理解と進路実現を援助する。 (5) 地域連携活動、部活動、ボランティア活動等、地域貢献に関わる活動に積極的に参加できる環境を整える。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1) 寮担当教頭、舎監担当教員、栄養士、給食支援員、事務アシスタントが連携して指導を行う。 (2) 研修生・研修内容に応じ、学年・学科・分掌・部活動等の協力を仰ぎ研修舎監として指導を依頼する。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 舎監・研修舎監による訓話等の指導 (2) 給食、衛生・健康管理、食育等の支援・指導 (3) 点呼・健康管理・清掃・学習・週番等、規則正しい日課の指導 (4) 寮生委員会による自治改善活動の指導・監督 (5) 各種研修の受け入れと指導	(1) 寮生総会 (2) 舎監会議・舎監日誌 (3) 寮生保護者会 (4) 食事に関するアンケート		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
(1) 新型コロナウイルス感染対策 県や国のガイダンスに従い、1人1部屋、食事提供方法の改善、対策日課等を整備し、保護者との連携を密にして登校日の前日開寮を行うことができた。また、感染発生時にも迅速かつ適切な対応により寮内のクラスターを防ぐことができた。	行動観察 保護者連絡 情報交換	A B C D	
(2) 寮行事の企画運営と寮生委員会活動 入寮式、寮生総会、スポーツレクリエーション、大掃除、納涼会クリスマス会、寮生菜園、動物飼育など、新型コロナウイルスに対応し、三密を避けた方法・内容で企画・実施することができた。企画・運営は、各寮生委員会中心となり積極的に行った。	寮生総会 寮生委員会記録簿 情報交換	A B C D	
(3) 寮研修 今年度、宿泊を伴う寮研修に関しては、新型コロナウイルス感染対策のためすべて中止した。来年度以降の寮研修の在り方について協議を進めている。	舎監会議 職員会議	A B C D	
(4) 食育・人権教育・危機管理教育 食文化や地産地消についての掲示教育や、食品残差の軽減・食中毒の予防、災害時炊飯訓練、集団感染の予防、寮生菜園の活用、ボランティア活動への積極的参加など、集団生活に関する指導を通し、寄宿舎特有の教育を推進することができた。	行動観察 情報交換	A B C D	
11 成果・課題	(1) ○適切な新型コロナ対策の継続により、安全な寮運営を行うことができた。 (2) ○コロナ禍にあっても適切な寮行事によって、寄宿舎教育を推進することができた (3) ○寮生委員会や学校組織との連携により、寮の自治や組織運営教育が行えた (4) ▲施設設備の老朽化が進んでいる。 (5) ▲寮の魅力の発信と寮生の確保。 (6) ▲農業経営者育成寮として、柔軟な寮研修の検討と働き方改革の調整。		総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案	(1) 適切な感染症対策の徹底と継続。 (2) 継続的な寮の施設改修・修繕・環境整備。 (3) 柔軟かつ、働き方に配慮した寮研修の検討。 (4) 遠隔地寮生の確保に向けた対応（休日の部活動・実習等）。 (5) 寮の環境を生かした魅力的かつ自主性を養う寄宿舎教育の推進。		

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和 4年1月26日

【意見・要望・評価等】

- ・人間形成の観点からみても「挨拶」はとても大切であり、この素晴らしい挨拶の習慣を、今後も絶やすことなく成長し行ってほしい。
- ・アンケートからも全体的に肯定的な意見が多く、生徒に寄り添った教育活動の現状が、結果として現れている。
- ・社会での集団生活の大切さ（集団の中での個の役割）を学ぶためにも、部活動の活性化には努めてほしい。
- ・観光の町（養老町）としての活性化、町おこしに対し、企業や行政等との協働により、「養老町ブランド」を作るふるさと教育の更なる推進にも尽力してほしい。
- ・生徒の発表や自己評価資料を見して、学校の取り組みがよく分かった。地域だけでなく専門（企業・大学）の方からも協力を得ていることの成果が現れている。